網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標（めどう）に
全教会心定めの達成」

◇本部春季大祭◇

1月26日、中山大亮様祭主のもと、厳かに春季大祭が執行された。

◇教会長夫妻おたすけ推進の集い開催◇

年祭活動２年目、教会長夫妻が先頭に立って活動していこうと決意を新たにした。

◇直轄教会 巡教始まる◇

3月までに直轄教会に巡教が行われます。
各教会の巡教日はそれぞれの教会にお尋ね下さい。

大教会のHPがご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会 春季大祭

大教会1月の春季大祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「教祖百四十年祭三年千日にあたる本年も、引き続き「教祖のひながたを目標に全教会心定めの達成」という活動方針を掲げ、初席者六十名、ようぼく二十九名、修養科修了者十八名、教人十一名の心を定め、親神様の陽気ぐらしを求める強い思召に応えさせて頂けるよう、我が事は後回しに、ぢばの声を第一に素直に受け、実行へ移させて頂く所存でございます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

神殿講話　大教会長

神殿講話全文

一月は、諭達第四号で「明治二十年陰暦正月二十六日、子供の成人を急き込まれ、定命を縮めて現身をかくされたが、今も存命のまま元のやしきに留まり、世界たすけの先頭に立ってお働き下され、私たちをお導きくだされている。」と真柱様がお示しの通り、本年は教祖がお姿を隠されてから百三十八年目になります。

我々お道を信仰するものは、二年後の教祖百四十年祭を目指して昨年からより一層力を入れて通らせて頂き、現在年祭活動は二年目に入りました。

一昨年、三年千日が始まる前年の十月に真柱様は、我々がこの三年間どういう心構えで通らせて頂いたらよいかという指針を諭達第四号において示し下さいました。諭達第四号ではひながたという言葉が、八回出てきます。特に我々ようぼくは諭達でお示し下さっていることを、三年間心に置いて通らせて頂かなければならないので、やはり教祖ひながたを身近に感じ、実行させて頂くことが非常に重要になります。

ひながたといえば教祖伝逸話篇がわかりやすく身近に感じると思います。逸話篇は教祖九十年祭の時に発刊されたもので二百話のお話が納められておりますが、一番のお話よりおおよそ年代通りの順番になっています。

まずは、逸話篇の冒頭のお話に触れさせて頂きますが、逸話篇七番に「真心の御供」という逸話があります。これは教祖は見抜き見通しであったということと、神様へ御供をする時の心構えについて教えて下さっております。

この「真心の御供」のお話は、初めて信者が教祖へお米四合を持って御礼参りされた後の話しで、教祖が六十一才から六十三才位の時のお話になります。

教祖を含め家族の皆さんは、貧のどん底を通られている頃でまだ明日の食べるお米もな

いというような時代の話しと推察できますが、ある年の暮れに一人の信者が立派な重箱に綺麗な餅を入れて「これを教祖にお上げしてください。」といって持ってきました。娘のこかん様は、早速それを教祖にお見せしましたが、教祖は「ああそうかえ。」とだけしか言いませんでした。

それから二～三日して、又、一人の信者がやってきました。そして粗末な風呂敷包みを出して「これを、教祖にお上げして頂きとうございます。」と言って渡しました。中には竹の皮にほんの少しのあん餅が入っていました。そして、こかん様が教祖にお見せすると、「直ぐに、親神様にお供えしておくれ。」と非常にご満足の様子だったそうです。

後で分かったのですが、最初に餅を持ってきた人は、相当な家の人で正月の餅をついて余ったので、とにかく教祖の所へお上げしようとなったのですが、後の人は貧しい家であったけれども、やっとのことで正月の餅をつくことができたので、「これも、親神様のお陰だ。何はおいてもお初を。」というので教祖に持って来ました。

このお話を読んで分かるように、教祖は何事も見抜き見通しで人々の心遣いと行いは、すべてご存知でありました。これは現在も同じで、教祖は姿形が見えないだけで、魂は生き通しで我々の考えることや、することは全て教祖に筒抜けなのです。

昔の人はよく御天と様が見ているよと話をしていましたが、まさに教祖が見ておられるのです。教祖はもちろんのこと親神様も我々の考えることやすることなど、心をどういう風に使っているかは、筒抜けで全て分かっておられます。

逆に考えると、仮に我々人間の心遣いが分からないまま身上や事情を見せられるとなればたまったものではありません。もし親神様が我々の心使いを知らずに、気まぐれで人間に身上や事情を見せるとなるとどうなるでしょう。私たちは日々どう暮らせばよいのか全くわからなくなります。

人間の世界は世の中で悪いことをしている人すべてを、法の裁きにかけることはできません。我々の知らない所で罪を犯している人も大勢いますが、反対にどれだけ善いことをしても世の中全ての人に拍手をされ称賛されるとは限りません。

しかし、先程お話をしました御天と様が見ているではありませんが、親神様が善悪共にすべて見抜き見通しで筒抜けだからこそ、世の中の人も神様は善は善、悪は悪で平等に見てくれているとなり、安心して人生を送れることになります。

常に親神様・教祖は我々の心遣いをご覧になっているという実感をもつことが大切になります。しかし常に親神様、教祖がご覧になっているというと、我々人間はどうしても悪い方に考えてしまいます。

何か悪い心遣いを見られているのではないか、この通り方は間違っていて、病気をもらってしまうのでは、災難にあってしまうのではと考えがちになりやすいものです。

しかし、逸話篇には人間の悪行をこらしめるということより、善い行いをご覧になっているというお話の方が多いのです。

例えば、逸話篇百六の「蔭膳」という話では、教祖が十二日間、奈良監獄所へ御苦労下されたとき、梅谷四郎兵衛さんは、差し入れをするため毎日朝暗いうちから起きて、監獄所までの十二キロの道を歩いて行かれました。ある時は、監獄所で挨拶をしなかったと言って脅かされ、泥の中へ手をついて謝り、ようやく帰らせてもらったことさえありました。

それから教祖はお元気で自宅にお戻りになり、四郎兵衛さんを呼び「四郎兵衛さん、御苦労やったなぁ。お陰で、ちっともひもじゅうなかったで。」と仰せられました。四郎兵衛さんはその時、差し入れを届けていただけで、教祖には一度もお会いしていないのに、なぜ自分が差し入れをしていると分かったのだろうと思われたのでないでしょうか。

そして更に後でわかったのですが、教祖が監獄で御苦労下さっている間、梅谷四郎兵衛さんの奥さんが、大阪で毎日教祖が目の前におられる思いで蔭膳をされていました。

この時、四郎兵衛さんと奥さんが語り合う中で改めて、教祖はやはり見抜き見通しなんだと気づかせて頂いたと思うのです。このお話ひとつとっても、教祖は常にすべての行いをご覧になっているということがわかります。

ここまでの逸話は神様が我々をどう見て下さっているのかという話でありますが、では次に神様は我々人間にどういう心をかけて下さっているのかというお話です。

逸話篇百六十番のお話に「柿選び」というお話があります。この逸話篇は、柿の旬の時期にお盆に載せてあった柿を、教祖が桝井さんに上げようとして、そのお盆の上の柿をあちこちと眺めて選んでおりました。桝井さんは教祖でもやはり選ぶんだなあと思っていると、教祖は一番悪い柿をとって、残りの柿を見て一つお上がりと柿を下さったのです。

桝井さんは、教祖も柿を選ばれるが、教祖がお選びになるのは、我々とは違って一番

悪い柿を選ばれる。これが教祖の親心なんだ。子供にはおいしそうなのを後に残して、これを食べさせてやりたいという、これが本当の親心だと思われました。桝井さんはこの教祖の様子を深く肝に銘じて生涯忘れなかったそうです。

このお話も非常に分かりやすく身近なお話になりますが、現代に生きる我々がこのひながたを実行に移そうとするとき、例えばスーパーに買い物に行ったとします。牛乳を買う時、卵を買う時皆さんはまず何を見るでしょうか。牛乳や卵の種類を見る方もおられますが、賞味期限を見る方が多いと思います。

皆さんはどうでしょう。賞味期限が迫っているもの、賞味期限がまだ十分にあるものどちらを手に取るでしょうか。大概の方は賞味期限がまだ十分にあるものをとると思いますが、もし教祖がスーパーに買い物に行かれたらどうされるでしょうか。きっと賞味期限が迫っているものを選び、後で買う人に賞味期限がまだ十分にあるものを選んでもらえるようにされるのではないでしょうか。

もう一つ例を挙げますと、皆さんはドラッグストアやホームセンターへ車で買い物に行ったとき、どこに車を止めるでしょうか。なるべくお店の玄関に近い所、近い所に車を止めるのではないでしょうか。

教祖が車で買いものに行かれたら、きっとお店の玄関より少し遠い所を選ばれ自分は少し歩かれ、後から来る人に少しでも玄関の近くに車を止めてもらえるようにするのではないでしょうか。

教祖がもし、電車に乗っていたら、もし車を運転していたらと考えると、教祖のひながたを実践することはそんなに難しいことではありません。

我々はついつい、教祖のひながたは人間では到底通られないと思いがちです。貧に落ち切る為、家にある金品や家財などありとあらゆるものをすべて困っている人々へ施してしまったり、七十五日間の断食や腕力ある二十代の青年と力比べをして若い人たちを負かしてしまったり、監獄所に何度も御苦労されたりと教祖のひながたは到底真似ができないと思っておられる方もおられるでしょう。

しかし、先程、真心の御供や蔭膳、柿選びなどを例に挙げましたが、よくよく考えれば、日々生活をする中で教祖のひながたを実践しようと思えばいくらでも出てくるのです。

真柱様は諭達で「ひながたを通らねばひながた要らん。(略)ひながたの道より道が無いで」と仰られています。教祖年祭の三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の道を活発に推し進めるときである。ともお示しし下さっているように、ひながたをどのように身近な生活に生かすことができるかをひたすら考えて、ひながたを実践し、一心一家の都合は捨て、我が事は後回しに三年千日二年目の本年も、全教会心定めの達成を目指し、網走大教会が一丸となって、年祭活動に伏せ込ませて頂きましょう。

本年一年も何卒宜しくお願い致します。

節分行事

2月3日、大教会・詰所・旭網分教会で節分行事が行われた。

大教会では瀬川定自役員が節分の意味合いを説明したのち、鬼に豆をまいたり、お菓子をまいて賑わった。

▼大人18名・子供16名参加

詰所ではおぢば在住の勤務者の家族などを招いて、手作りの鬼のかぶり物で豆まきをして、子供たちを楽しませた。

▼大人9名・子供9名参加

旭網分教会でも会長が立春や節分の意味合いを説明し、豆まきをして盛り上がった。

▼大人2名・子供4名参加

真柱様65歳の御誕生日

1月16日真柱様は満65歳のお誕生日を迎えられた。

大教会では、朝づとめてをどりまなび終了後、皆で三階客間に上がり、奥様が真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

また夕づとめ終了後、参拝場にて少年会を代表して網走隊隊長瀬川つぐみさんが真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

教会長夫妻おたすけ推進の集い

1月12日・13日、教会長夫妻おたすけ推進の集いが開催された。

この集いは、年祭活動2年目に、たすけ一条の歩みを一層進めるうえから、道の先達である教会長夫妻がにをいがけ・おたすけに積極的に取り組むよう促すとともに、昨年の歩みを踏まえ、教祖にお誓い申し上げた目標の実現に向けて、教会が一丸となって歩みを進めようということで開催された。

最初に内統領先生から教会長夫妻へ向けたビデオメッセージを拝見し、続けて、大教会長が挨拶した。その後、3名の代表者がそれぞれの実働を発表した。

2日目は、旬の声を受けて実働する他系統の教会長の姿をビデオで拝見し、その後、班別に練り合いをして、最後に御礼づとめをさせて頂き終了した。

修養科一期講師拝命

○大教会長　４月から６月

○三幣正志（女満別分教会長）
７月から９月

立教187年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教　人
60名	29名	18名	11名
成　果（1月末現在）			
1名	0名	0名	0名

修養科事前研修会 よろこびセミナーを受講して

女満別　福田和彦

長年信仰していて、忘れていたことなどが、講義を受けて基礎をもう一度再確認できてよかった。

講義も分かりやすくて、頭にも入りやすかったし、講義前のウォーミングアップが大切なのがよく分かりました。

徳元　大野美重子

私は35年前に修養科に行かせて頂きました。改めて、今回、このような機会があり、再度、今一度、修養科に行かせて頂けたら、神様どのようなことを私に与えて頂けるのかと思わさせて頂きました。

私と同行して頂いた信者さんと修養科に行けたらどんなに楽しいかな！

徳元　近藤洋子

かしもの・かりもの・ひのきしんの説明を聞かせて頂き、分かりやすかったです。ひのきしんは感謝の気持ちが大切なのだと学ばせて頂きました。

徳元　竹下和子

講義や練り合いを交えた3日間の研修に参加して感じたことは、まず、講師の方が分かりやすくお道の教えをお話して下さり、学ばせて頂くことがたくさんありました。学んだことをしっかり心に修めて、もっと成人して行きます。

徳元　西村セチ子

研修の内容で八つのほこり、いんねん、たんのうの講義が特に興味深く、もう少し学びたいと思いました。楽しく学べたことに感謝します。

徳元　山本裕子

どの講義も分かりやすく説明して頂きました。自分の体は、親神様のかりもの！陽気ぐらしに明るく毎日過ごして行きたいです。お話することが苦手ですけど、3日間楽しく講義を受けることができました。

座りづとめも細かく教えて頂いたので、自分が間違えていたところも分かったので、これからも勇んでつとめさせて頂きます。

徳元　渡部順子

天理教は、家族の健康障害を機会に出会い、時々おつとめに参加させて頂いていました。

今回、よろこびセミナーを受講させて頂き、教えの概要、言葉の意味など、理解できたと思います。トイレ掃除から、ほこりを払うこと、自分自身の心の浄化、相互の成長、つながりを勉強させて頂きました。

誠綱　長岡佳奈子

周りの方から、この研修会がすごく良かったと、たくさん聞かせて頂いて、とても楽しみに参加させて頂きました。

私は、2年前に2回目の修養科を修了させて頂いてますが、久しぶりにお勉強させて頂ける機会を頂けて、とても分かりやすく、ありがたい時間でした。

練り合いでは、貴重なお話をたくさん聞かせて頂けて、とても心に響きました。もっと基本的なことをしっかり心において日々実践して、これからはもっとしっかり信仰していきたいと思います。

人をたすけさせて頂ける人になれるように励んで行きたいと思います。

動静

年祭

▼誠央分教会三代会長・永井良一の霊様の10年祭が10月7日、誠央分教会にて結城和広・大教会役員祭主のもと執行された。

▼誠央分教会所属・加賀谷忠の霊様の1年祭が12月7日、誠央分教会にて永井康幸・誠央分教会長祭主のもと執行された。

1月人のご守護

○初席者（1名）
オホーツク　横田優愛

○修養科志願者（2名）
女満別　姉﨑明美
福田綾子

○教人登録者（1名）
誠綱　八重樫隆
（昨年12月登録済）

○別席傍聴願（1名）

大教会1月の動き

1日　元旦祭
2日　直轄世話人会
3日　役員会会議。会長おぢばがえり
4日　会長、年頭あいさつ出席
5日　会長、お節会ひのきしん（7日まで）
7日　縦の伝道日。会長、教区祭実行委員会会議
9日　少年会お泊り会（10日まで）。網走支部例会会場
10日　役員会会議
11日　教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会
12日　春季大祭。教会長夫妻おたすけ推進の集い（13日まで）。役員会会議。連絡会
14日　縦の伝道日。会長、教区祭実行委員会会議、教区主事会
15日　会長、上級参拝、関東方面直轄信者まわり。（19日まで）
16日　真柱様お誕生日お祝い
17日　会長、館山分教会大祭参拝。支部婦人会例会会場
18日　会長、嶽東大教会参拝
19日　会長、札幌方面直轄信者まわり（21日まで）
23日　会長、おぢばがえり。詰所23会
24日　会長、本部神殿奉仕つとめる。縦の伝道日
25日　五季御礼。会長、本部災救隊会議出席、本部布教部講師委託式出席
26日　本部春季大祭遙拝。会長、教区祭実行委員会会議、その他会議出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
27日　会長、少年会年頭幹部会、かなめ会出席、一期講師研修会（28日まで）。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる
28日　縦の伝道日。天理教婦人会創立記念の日
29日　大教会一斉活動日
30日　会長、災救隊出動・石川県（2月5日まで）
31日　会長、教区主事会

立教187（令和6）年人のご守護成果表（1月末現在）

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	帰参者 当月	帰参者 累計	教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	帰参者 当月	帰参者 累計
直轄						9	9	誠央						3	3
美幌						0	0	常道							0
女満別						6	6	徳道						2	2
斜里町							0	満金							0
釧厚						2	2	網安							0
武士						1	1	オホーツク	1					14	14
常呂						1	1	網徳							0
旭網						1	1	栗沢							0
御料							0	徳元							0
東藻琴							0	網盛						1	1
陽光						1	1	網新							0
呼人						1	1	網葉							0
誠陽						2	2	網陽						1	1
網栄							0	誠綱						6	6
實東						4	4	網次						1	1
東網							0	網昇						2	2
宗稚						1	1	勇走						1	1
								詰所						4	4

初席 当月	初席 成果	中席 当月	中席 成果	ようぼく 当月	ようぼく 成果	修卒 当月	修卒 成果	教人 当月	教人 成果	帰参者 当月	帰参者 成果
1	1									64	64

春季大祭　1/12(金)

〈参拝者数　約90人〉

神殿講話	賛者	指図方	扈者	祭主		
大教会長	田中安田 三澤岩原清水 光広春雄信繁喜	新川正人	藤山小松 重善篤志	大教会長	祭員	祭典役割
胡三味琴弓線	小りがす鼓ね太鼓 ちゃん子笛ぽん	地方	てをどり			
山崎藤井三幣蔦道輝代恵子	栗林結城藤山小松三幣 徳正和重篤雅正広善志人志	小針瀬川細木 敏文定自善信	藤山林リ道子栗大教会長夫人丸一新山川教会長徳人		座りづとめ	
藤山細木丸山のり朱真理美子	桐谷遠原菅田三幣小松 善広眞明明宏敦志清三篤志	田中永井斎藤 康繁芳幸徳	大山青山新水清遠藤在原 泰子聖子知子信喜明広道彌		前半	
栗林三幣結城美代美和子	瀬川清水奥野眞壁三澤岩原 定自知幸直治正教雄繁	三幣遠藤藤井 正志浩二広志	三幣瀬川斎藤里 有子祐子恵子徳子栗林正広安田川美		後半	